

■現地ボランティア募集■（教会の信徒に限定していません）

（ボランティア受付票 <http://www.nskk.org/kyoto/images/shien/uketuke.pdf>）

（日立ボランティアセンターTEL 080-4249-5469）（京都教区教務所 FAX075-441-4238）

Tel 075-431-7204 Fax 075-441-4238 E-mail nskk-kyoto@kvp.biglobe.ne.jp

〒602-8021 京都市上京区烏丸通下立売上る 京都教区教務所

献金振込先 郵便振替口座：01090-9-8162 口座名：日本聖公会京都教区教務所

ゆうちょ銀行以外からの振込の場合 ゆうちょ銀行109（イチゼロキュウ）店 当座預金 008162

振替用紙で送金される場合は、通信欄に「東日本大震災」と明記してください

京都教区震災対策室（京都聖三一教会から参加したボランティアの報告を紹介します）

5月17～24日にかけて、福島いわき、宮城気仙沼、岩手陸前高田で、ボランティア活動をしました。各地域共通して言える事は、まだ当分の間、ボランティアが必要とされていることです。主な作業は、津波により生じた瓦礫の撤去、家屋内外の泥の撤去や清掃です。正直かなりの重労働で一日4～5時間程度の活動ですが、終わるとぐったり疲れます。現地の被害状況は大きく二つに分けると、壊滅状態の地域と、もうひとつは半壊かそれ以下の地域になります。前者はボランティアが介入するのが難しい地域で、専門業者が重機を使い解体撤去作業を行います。ボランティアが必要とされるのは主に後者のエリアで、住人が再び元の生活に戻れるように、建物やその周囲を、手作業できれいにしていきます。多くのボランティアが今後も必要とされる理由は、大掛かりな重機などではできないこういった作業がたくさん残されているからだといえます。また、避難所では傾聴ボランティアも積極的に行われていました。足湯コーナーを設け、そこで避難者の洗足をしながらコミュニケーションをとり、様々な胸のうちを吐露してもらい、少しでも精神的負担を軽減してもらうというカウンセリング的な関わりです。このボランティアに参加した人の話しでは、最初は避難所の方も緊張されていたが、足湯を通じて緊張をほぐし、徐々に胸のうちを話ってくれたとのこと。ハード面のボランティアだけでなくこういったソフト面の関わりも重要だと思います。

東北教区に加藤博道主教から

皆様のお祈りとお支えに、ことに日立からいわき市におけるお働きに心より感謝いたします。神戸教区から大阪教区へバトンタッチされました。神戸教区には本当に力をいただきました。

京都教区(5/23～5/27)

新宮聖公会から1名、5月23日から5月27日まで現地で奉仕されました。

奈良基督教会から1名、5月26日から5月29日まで日立で活動されております。

教区震災対策室のブログに教区の活動が掲載されています。<http://nskk-kyotsinsai.blogspot.com/>